

早生・良食味水稻新品種「三重4号」						
[要約]早生、良質、極良食味的水稻「三重4号」を育成した。熟期は「あきたこまち」よりやや晩で、耐冷性が強く、穂発芽性は難である。本種を「チヨニシキ」、「あきたこまち」に替えて奨励品種に採用し、県平坦部での普及を図る。						
三重県農業技術センター・資源開発部・稲育種担当				連絡先	05984-2-6363	
部会名	水田・畑作物	専門	育種	対象	稲類	普及

[背景・ねらい]

本県では県独自のブランド米になり得る早生優良品種の育成要望が以前から強かった。そこで早場米生産県としての地位を確立し、かつ「コシヒカリ」への過度の集中を緩和するための早生の良質・良食味品種を育成し、普及を図る。

[成果の内容・特徴]

- 「三重4号」は早生、良質、良食味を育種目標に、平成2年「山形41号」を母とし、「東北143号（ひとめぼれ）」を父として交配し、その後代から育成された。平成9年の世代はF<sub>7</sub>である。平成10年2月、奨励品種採用及び種苗登録申請予定である。
- 「あきたこまち」に比べ出穂期は3～4日、成熟期は1～3日遅い。
- 稈長は「あきたこまち」より3cm程度短い、耐倒伏性は同程度の「中」である。穂長は5～10mm程度長い。穂数は「あきたこまち」と同程度で、草型は中間型に属する。
- 葉いもち抵抗性は「中」、穂いもち抵抗性は「強」である。また耐冷性は「やや強～強」で、「あきたこまち」よりも強い。
- 玄米千粒重は「あきたこまち」と同程度である。また外観品質は「あきたこまち」より良好である。
- 収量は「あきたこまち」より多収である。
- 食味は「コシヒカリ」並みの極良である。

[成果の活用面・留意点]

- 普及地帯は伊勢湾平坦部の早場米地帯、特に「コシヒカリ」の作付比率の高い地域。
- 耐倒伏性が「中」であるため、多肥を避け適期刈りを行い、高品質、良食味米の生産に努める。
- 「コシヒカリ」に比べ出穂期が早い、鳥害回避の点から極力作付の団地化を図る。

[具体的データ]

系統名	三重4号	交配組合せ	山形41号×東北143号、ひとめぼれ				
特性	長所 1. 食味が極良である。 2. 穂発芽性が難である。 3. 耐冷性が強い。			短所 1. 耐倒伏性が中である。 2. 葉いもち・白葉枯抵抗性が中である			
採用県と普及見込み面積	三重県 3,000ha						
調査地	三重県農業技術センター（育成地）			伊賀農業センター			
調査年次	1996～97年			1997年			
系統名 品種名	三重4号 早生の早	あきたこまち 早生の早	コシヒカリ 早生の中	三重4号 早生の早	あきたこまち 早生の早	コシヒカリ 早生の中	
草型	中間	中間	中間	偏穂数	中間	中間	
出穂期(月)	7.19	7.16	7.24	7.28	7.24	8.4	
成熟期(月)	8.24	8.23	8.29	9.02	8.30	9.6	
稈長(cm)	73	76	82	74	79	88	
穂長(cm)	19.2	18.2	19.6	18.9	18.4	18.3	
穂数(本/㎡)	435	427	429	456	434	391	
芒の多少	稀・短	稀・短	稀・短	稀・短	稀・短	稀・短	
ふ先色	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	
脱粒性	難	難	難	難	難	難	
耐倒伏性	中	中	弱	中	中	弱	
穂発芽性	難	やや難	難	難	やや難	難	
耐冷性	やや強～強	中	強	やや強～強	中	強	
耐病性	いもち病	Pi-i 中 強	Pi-i 中 中	+	弱 弱	Pi-i 中 弱	
	白粉病	中	中	強	中	中 強	
玄米	収量(t/ha)	51.4	49.0	55.2	60.6	55.4	60.4
	精米率(%)	105	100	113	109	100	109
米	千粒重(g)	21.5	21.0	21.3	22.4	22.4	23.0
玄米品質	食味	中の上 上の中	中の中 上の中	中の中 上の中	中の中 上の中	中の中 上の中	中の中 上の中

[その他]

研究課題名：水稻新品種の育成、水稻奨励品種決定調査  
 予算区分：県単及び国補  
 研究期間：平成9年度（平成2年～平成11年）  
 研究担当者：橘 尚明、山川 智大、橘爪 不二夫、村上 高敏、立松 伸夫